

# 須恵

2011  
**179号**  
NOVEMBER

平成23年11月4日発行

ほくも試合に出たいなあ

## 9月定例会 主な内容

**76億3,286万円** 平成22年度一般会計決算を認定！ **2▶**

**ここが聞きたい** (一般質問) **4▶**

**なんばしようと?** (ほっけんぎょう) **14▶**

発行・編集責任者/議長 三角良人 所在地/〒811-2193 須恵町大字須恵771番地 TEL/092(932)1151(内線411 議会事務局) FAX/092(933)6579

# なんばしようと? 第2回

## 地域の特色

須恵町の地域の特色や伝統行事等を紹介します。そこで今回は、「ほっけんぎょう」ってなんばしようと?



ほっけんぎょうの様子 (乙植木区)

乙植木区の稲永さんと大島原区の川上さん・小山田さんにお話を伺いました。  
ほっけんぎょうは、どんど焼きとも言われ、現在須恵町の5行政区(乙植木・大島原・佐谷・新原・上須恵)に残る行事で、1月15日ないし7日に近い日曜日の早朝に行われます。孟宗竹・笹・藁などを高さ5m、直径2〜3mのトンがり帽子のような形に立て、門松・お札・しめ縄・書初めの紙などに火をつけて祭ります。

以前は、火は家の竈から持ってきたものを移してつけていました。「この火で焼いた昆布・スルメ・餅などを食べると病気をしないし、長生きする」「書初めの紙を燃やし、その紙が火の勢いで高く揚れば揚るほど、習字が上手になる」「竹は完全に焼いておかないと、燃え残りがヒラクチ(まむし)になる」「荒神様の飾り餅をこの火で焼き、家に持ち帰って味噌に砂糖を入れたものをつけて食べると病気になる」などのいわれがあります。  
大島原区では、餅を焼いて食べ、カッポ酒を飲んで無病息災を祈願します。  
乙植木区では、ぜんざい・豚汁をふるまい、区民の親睦もはかっているそうです。



謂れ

川上 正俊 さん

小山田 永次郎 さん

稲永 義一 さん

## 編集後記

法然上人800年 大遠忌法要

先日、50年に1度の法要に参加の機会を得た。浄土宗開祖法然上人の800回忌である。  
京都知恩院の大殿で、300人程の僧侶により行われる。全国からの参列があるため、1ヶ月ほど続く大祭だ。  
法然上人は8つの大師号をお持ちである。  
ご入滅後486年以降50年の節目ごとに天皇よりさがる。  
新しいものは、今回、今上天皇による法爾大師で、その意味は「あるがままの姿にある」ということだ。  
規制や理性はもちろん大事だが、個性や獨創性を見失うことのないよう改めて思う。編集にも活かしていきたい。  
合屋 伸好